

投稿規定

1. 本誌への投稿は、本会正会員および特別会員に限る。
2. 本研究会における講演者は講演要旨を本誌に投稿する。
3. 本誌への掲載論文は病害虫に関する未発表のものおよび本会が依頼したものとする。
4. 原稿は、別途定める執筆要領にしたがって執筆する。
5. 印刷頁数が2頁を越えた場合は、超過分につき1頁当たり10,000円を超過頁代金として著者が負担する。
6. 論文投稿予定者は、予定論文表題、代表著者名、所属、連絡先を3月末日までにe-mailに添付した投稿計画連絡票の送付によって編集委員長に連絡する。
7. 投稿に当たっては、原稿および投稿票を4月20日までにe-mailに添付して編集委員長へ送付する。
8. 投稿された原稿は、編集委員会が委託した校閲者2名の校閲を受ける。編集委員会は、校閲者の意見を参考にして著者に原稿の修正を求めることができる。
9. 投稿原稿の採否は編集委員会で審議し、編集委員長が決定する。
10. 校正は原則として初校のみを著者が行う。校正時での内容の変更は認めない。
11. 別刷りは50部を単位とし、代金は著者が負担する。
12. 編集委員会は執筆要領および編集方針に基づき、原稿中の用字・用語を修正する権限を持つ。
13. 英文による表題、摘要および図表は、編集委員会より英文校閲者に校閲を依頼する。表題の校閲料は研究会の経費から負担し、摘要ならびに図表の校閲料は著者が負担する。
14. e-mailが利用できない場合は事務局に申し出てその指示に従う。
15. 本規定の改正は評議員会で行い、総会に報告しなければならない。

(2015年3月18日最終改定)

執筆要領

<論文原稿>

1. 原稿用紙
 - 1) 原稿はワードプロセッサ(Microsoft Word を推奨) で作成する。用紙設定はA4判縦、横書きとし、原稿の上下と左には約3 cm、右には校閲のために8 cm以上の余白をとる。1行文字数は24字、1頁行数は28行以下とする。
 - 2) 原稿下中央には必ず頁番号を付け、左余白には行番号(文書全体を通した連番)を入れる。
2. 書体等
 - 1) 原稿は和文で横書き口語体とする。漢字の使用は、専門用語を除き、できるだけ常用漢字に限る。動植物名および外来語はカタカナとし、動物・害虫名は日本応用動物昆虫学会編の農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版、病名は日本植物病理学会編の日本植物病名目録に準拠する。農薬名は原則として一般名を用いる。年号は西暦で表し、数字は原則として算用数字とする。
 - 2) 文字サイズは10.5ポイントとする。
 - 3) 和文は明朝体、欧文および数字はCenturyを用いる。表題と見出しはゴシック体とする。図・表については特にフォントの指定はしない。
 - 4) 漢字、ひらがな、カタカナは全角とする。欧文と数字(一桁、二桁以降とも)は半角とし、数値は3桁ごとに半角コンマを入れて区切る。
 - 5) 欧文のイタリック体は実線の下線、ゴシック体は波線の下線、スモールキャピタルは二重の下線で示す。学名は本文の最初に出てきたときに書き、イタリック体とする。統計記号は、統計量(p , t , z , F , r など)はイタリック体にし、略語(SD, SE, n など)はイタリック体にしないで示す。
 - 6) 文章の区切りはコンマ「,」と句点「。」にする。本文中の括弧、コロン等の記号は全角とする。
 - 7) 単位の略記は次の例による。
温度 °C; 重さ kg, g, mg, μ g など; 長さ km, m, cm, mm, μ m, nm; 面積 m^2 , cm^2 , a, ha; 容積 L, ml, μ l; 時間' (分), '' (秒) (文章の中では分, 秒とする); 濃度 M, mM, N, %, ppm, ppb; 水素イオン濃度 pH; 酸化還元電位 Eh, rH。
 - 8) 単位と数値の間は半角スペースを入れる。ただし、°Cや%のような記号の場合は入れない。
3. 論文の構成
 - 1) 原稿は以下のような構成とする。
第1頁: 表題, 著者名, 所属, 英文表題, 英文著者名, 別刷りの英文請求先, 責任著者 e-mail アドレス, 原稿の受領・掲載決定日(日付は空欄)を書く。英文表題は、単語の頭文字は大文字で記述する。ただし冠詞、4文字以下の前置詞および等位接続詞は小文字で記述し、学名は属名のみ頭文字を大文字で記述する。
第2頁: 和文あるいは英文摘要, キーワードを書く。

第3頁以降：本文，引用文献，表，図とする。

4. 著者名・所属等

- 1) 著者名は姓，名の順に書き，姓または名が1文字の場合は姓と名の間に全角スペースを入れる。英文著者名は名，姓の順に書き，名の頭文字1字のみが大文字，姓はすべて大文字で2文字目以降はスモールキャピタル指定とする。
- 2) 著者が複数いる場合は中黒点「・」でつなぐ。また，英文著者名は半角コンマでつなぐ，最後の著者名とは **and** でつなぐ。所属が異なる場合は代表著者と異なる所属の著者名の末尾に上付の*（アスタリスク）を付す。異なる所属の種類が増える場合は*を増やす。
- 3) 転出後の機関名を記載する場合は，著者名の後に上付数字を付け，別刷り英文請求先の前の行に現在の所属機関名を記載する。
- 4) 責任著者（Corresponding author）は著者名の後に“†”（剣印・ダガー）を付ける。

5. 摘要等

- 1) 摘要は簡潔にまとめ，改行はしない。摘要では本文中の図表の引用，文献の引用はしない。
- 2) 摘要の下に1行空けて論文内容を的確に表す英語キーワードを5語以内で記載する。

例) Key words: IPM, pest forecasting, ……

6. 本文

- 1) 本文は，緒言（見出しはつけない），材料および方法，結果，考察（あるいは結果および考察），引用文献などの順とする。
- 2) 本文の見出し・小見出しのランクは，番号なし（材料および方法，結果など），1., 1), (1), の順とする。小見出しの数字は全角の算用数字とする。
- 3) 本文中や引用文献等の欧文人名は次のようにする。
例, Baker et al. (1975), Dyar の法則, ……
- 4) 本文中で文献の引用は次のようにする。
野口 (1982a, 1982b, 1983), Tanaka and Kashio (1977), 田中・井上 (1973), 田中ら (1974),
Baker et al. (1975), (桑原ら, 1983; 池田ら, 1984; Smissaert et al., 1985)
- 5) 図表の挿入位置は原稿の本文右余白に明確に示す。
- 6) 論文中で新規に明らかにした核酸塩基配列およびアミノ酸配列データは，論文が受理されるまでに著者の責任において DDBJ/ENA/GenBank データバンクに登録し，本文中の該当箇所に登録番号 (Accession number) を表記する。

7. 引用文献

- 1) 引用文献はアルファベット順，暦年順に配列する。雑誌名は和文誌は省略・略記せず正式誌名で表記する。欧文誌は国際規格に従い，ISI Journal Title Abbreviations (<https://www.library.caltech.edu/journal-title-abbreviations>)などを参考に略称で表記する。
- 2) 日本語および日本語姓と名の字間および氏名間の・の全角を除き，括弧，頁間のハイフン，コロン，カンマ，ピリオド，英字，数字等はすべて半角とし，字間も半角とする。また，括弧の前後および半角コロン，カンマ，ピリオド等の直後には半角スペースを挿入する。以下に例を示す。
 - (1) 雑誌など逐次刊行物
五味唯考・根本正康 (1984) 日本植物病理学会報 50: 109-113.
Nakamura, K. and K. Kawasaki (1977) Appl. Entomol. Zool. 12: 162-177.
 - (2) 単行本
大木 理 (2007) 植物病理学. 東京化学同人, 東京. 161pp.
Lewis, T. (1973) Thrips, Their Biology and Economic Importance. Academic Press, London. 300pp.
 - (3) 単行本中の分担執筆論文
岡本 弘 (1962) 植物病理学実験法 (明日山秀文ら編). 日本植物防疫協会, 東京. pp. 301-334.
Sanders, C. J. (1974) Pheromones (M. C. Birch ed.). North-Holland Pub. Co., Amsterdam. pp. 435-441.
 - (4) Web サイト (著者名 (年号) web サイト名 . 入手先 . サイトの url, (アクセスを確認した最新の年月日).
長坂幸吉 (2014) アブラムシ対策用「バンカー法」技術マニュアル2014年改訂版. 農研機構.
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/051982.html, (参照 2018-10-15).
- 3) 雑誌および単行本で著者が3名以上の場合，著者名は和文で——ら，英文では—— et al. とする。
- 4) 講演要旨を引用する場合は，最後に（講要）または（Abstr.）を記す。

8. 図・表

- 1) 図はできるだけ簡略にし，必要最小限にとどめる。図は，あらかじめ 1/2（面積で 1/4）程度に縮小できるように描く。凡例は図内に書く。
- 2) 図の表題は図の下部に書き，第○図……のようにし，文末にピリオドは入れない。注釈は表題の後に改行して表記し，文末にピリオドを付ける。英文の場合は，表題の文末に半角ピリオドを入れ，続けて注釈を記載し，文末にピリオドを付ける。
- 3) 表はできるだけ簡略にし，原則として縦線は使用しない。極端な縦長や横長は避ける。

4) 表の表題は上部に第〇表……のようにし、文末にピリオドは入れない。表中の注釈は a), b)…… (上付) を用い、表下は以下のように記し、文末には和文、英文ともピリオドを付ける。

a) …………….

b) …………….

5) 図・表は1枚を1葉に書き、本文の後に添付してひとつのファイルにまとめる。必要に応じて図表の説明文を別途作成し原稿の末尾に添付する。

9. 投稿に際しては、原稿の電子ファイル名は、「代表著者名・拡張子」とする。同一著者が複数の原稿を投稿する場合は著者名の後ろに番号を付す。

10. 審査を経て受理された原稿は、編集委員長の指示に従い所定の様式に再編集し、E-mail に添付して編集委員長へ送付する。なお、図や写真の原稿は受理後印刷の段階で原図あるいは明瞭な TIF, EPS, PPT, JPEG 等のファイルの提出を求めることがある。

<講演要旨>

A4判、横書きとし、余白を上下 25 mm、左右 30 mm とし、1行文字数を 42 字とする。書体等は論文原稿の執筆要領に従う。表題、著者名、所属 (() 内に記載)、本文の順に、それぞれ改行を入れて全体を 600 字程度にまとめる。本文中では改行せず、図表は用いない。

(2020年11月1日最終改定)

投稿計画連絡票

20 年 月 日

関東東山病虫害研究会報 編集委員長殿

下記の通り関東東山病虫害研究会報第____集執筆計画を通知します。

1. 執筆代表者氏名：
2. 論文予定表題：
3. 分野：病害・虫害・その他
4. 予定原稿枚数：刷り上がり約____頁*
5. 所属機関：
6. 住所：〒
7. 電話：
8. E-mail：

*1頁：図表なしの場合，約 2,000 字相当

本票は編集委員長あて（editor-ml@ktpss.org）添付ファイルまたは本文テキストとして送付する。

関東東山病害虫研究会報投稿票

投稿日：20 年 月 日

1. 和文表題
2. 著者名
3. 所属機関
4. 英文表題
5. ローマ字著者名 (Sugiyama K., Tatara A., Amano Y. and Tokita T. …のように)
6. 原稿枚数
本文 (摘要・英文 Abstract を含めて)____ 枚
表____枚
図____枚
写真____枚
英文 Abstract____枚
カラー印刷 (有料) の希望 有・無 (いずれか選択)
英文校閲* 済・未 (いずれか選択)
*表題の英文校閲については、原稿受理後に研究会経費で行います
7. 別刷部数 (50 部単位, 不要の場合は「0」を記入)
____部, 表紙: 有・無 (いずれか選択)
8. 代表者連絡先
氏名:
住所: 〒
電話:
E-mail:
9. 連絡事項 (請求書送付先など)
10. 投稿前チェックリスト (以下の□にチェックを入れてからご投稿ください)
 - 最新の投稿規定および執筆要領を確認した。
 - A4 判縦用紙に横書き, 一頁 24 字 × 28 行の設定。右側余白は 8 cm 以上。
 - 原稿に通し頁番号を付け, 左余白には行番号を入れた。
 - 表題は内容を的確に表現している。略語は使っていない。

- 英文表題の単語の頭文字は大文字である（冠詞, 4文字以下の前置詞, 等位接続詞は除く）。
- 和文著者名の姓または名が1文字の場合、姓と名の間を1字あけた。
- 複数の和文著者は中点「・」で区切った。
- 英文著者名は、名は頭文字のみ大文字、姓は全て大文字で2文字目以降はスモールキャピタル指定（二重下線）。
- 著者の所属が複数の場合、上付きの*,**...で区別した。
- 句読点は全角のコンマ（,）と句点（.）である。
- 本文中のカッコ、コロン等の記号は全角である。
- 動植物名および外来語はカタカナで表記した。
- 欧文および数字は半角、ひらがな・漢字・カタカナは全角である。
- 使用フォントは、和文は明朝体、欧文と数字はCentury、表題と見出しはゴシック指定（波下線）。
- 学名はイタリック指定にし、最初に出てきた時のみ属名を省略していない。
- 統計記号は、統計量 (p, t, z, F, r など) はイタリック体で示した。略語 (SD, SE, n など) はイタリック体でない。
- 英語キーワードを5語以内で記入した。
- 単位の略記、人名等の表記は会報の執筆要領 (http://www.ktpps.org/pdf/posting_regulations.pdf) に従っている。
- 本文に引用した文献は全て末尾の「引用文献」に記載し、本文に引用していない文献は載せてない。
- 未発表論文、会議資料、私信は本文中に書き入れ、引用文献には挙げていない。
- 引用文献はアルファベット順、暦年順に配列で記載した。
- 文献名等は正しく記載されている。
- 日本語の氏名を記入する際の字間の全角、・（点）の全角を除き、引用文献の括弧、ページ間のハイフン、コロン、カンマ、ピリオド、英字、数字はすべて半角として、字間も半角。半角コロン、カンマ、ピリオド等の直後には半角スペースを挿入した。

例)

- 1) 雑誌など逐次刊行物
服部 力ら (2010) 日本森林学会大会学術講演集 121: 703. (講要)
Nakamura, K. and K. Kawasaki (1977) Appl. Entomol. Zool. 12: 162-177.
- 2) 単行本
大木 理 (2007) 植物病理学. 東京化学同人, 東京. 161pp.
Lewis, T. (1973) Thrips, Their Biology and Economic Importance.

Academic Press, London. 300pp.

- 図表は1枚を1葉に書いた。
- 図表の表題は適切である（図表の内容が本文を参照しなくても分かる）。
- 図の表題は「第○図 ○○○…」とし、図の下部に書いた。
- 表の表題は「第○表 ○○○…」とし、表の上部に書いた。
- 表中の注釈は半角 a), b) …（上付）を用い、表下に記入した。
- 図表の注釈の文章の区切りはコンマとピリオドである。
- 図表の挿入位置を原稿の本文右余白に明確に記入し、本文と図表がきちんと対応している（朱書きの必要なし）。
- 図表を含めひとつのファイルにまとめた。
- カラー印刷（有料）の希望の有無を記入した。
- 別刷り希望の有無、部数、表紙の要・不要を明記した。
- 代表者連絡先氏名、住所、電話番号、メールアドレスを正しく記入した。